

2011年3月15日(火)

午前 9:30 ~ 9:40

CRT 両毛支局(足利市)にて収録

今こそ自律的な活動を行おう(1)
- 東日本大震災下の過ごし方を考える -

開倫塾
塾長 林 明夫

以下の文章は、私が担当して 25 年目に入った CRT ラジオ栃木放送「開倫塾の時間」2011 年 3 月 19 日の放送内容にもとづき大幅に書き加えたものです。お読みになりやすいように Q and A の形にさせて頂きました。是非、御熟読頂き参考にして下さい。

はじめに

まず初めに、今次の大震災で被害にあわれたすべての皆様に心からのお見舞いを申し上げます。また、一分でも早く救援がかないますよう心からお祈り申し上げます。

Q：大震災があったとき、林さんはどこにいたのですか。

A：3月11日の午後6時から9時まで東京で開かれる教育経営研究会に参加するため、東北自動車道で車を運転中に大地震に遭遇。大分ハンドルを取られました。蓮田サービスエリアでしばらく休んだ後、研究会が開かれるものと考えて東京都内に入りましたが、JR 山手線や地下鉄も動いていないことを知り、また、主宰者の先生に電話をしても通じないので、予定された研究会はないものと自分で判断し、高速道路は全面ストップしたので、ガソリンスタンドで給油してもらってから、一般道路で栃木県への帰路につきました。

ちょうど金曜日の夕刻であったため早目に都心から郊外の自宅に徒歩で帰宅する人々で道路はあふれ、栃木県に入るまで5時間余りかかりました。ただ、感心したのは、道を歩く人も、車を運転する人も、コンビニやスーパーマーケットで買い物をする人も、皆、整然とまた肅々と秩序正しく行動しているということでした。コンビニで水を買った時に、長い列に横入りをした人を一人だけ見かけましたが、どのようなところに行っても、皆さん本当にがまん強く秩序正しくしていました。

これには本当に感激しました。

Q：なぜですか。

A：このような大震災や事件が発生した時には、多くの国では、人々が自分のことのみ考えて大声を出し、ありとあらゆる要求をするのみならず、略奪や強盗など犯罪行為が発生することが多いと聞き及んでいたからです。

阪神淡路大震災の時もそうでしたが、今度の東日本大震災でも人々は極めて秩序正しく、また、皆、他の人々を思いやり親切に過ごしています。被害は極めて大変であります。人々の行動は立派であると私は考えます。

Q：この東日本大震災の下で、何をどのようにしたらよいとお考えですか。人々はどのように過ごしたらよいとお考えですか。

A：(1)一番大切なのは大震災にあわれた方々の人命の救済です。

(2)二番目は避難なさっておられる方々の生存・生命の維持のための支援。

(3)原子力発電施設や様々な工場、研究施設等の爆発や火災の防止。爆発や火災事故発生に備えた自治体単位での緊急避難の早期実施。

(4)以上、生存の維持、生命の維持が最も大切と考えます。人間の生命ほどかけがえのないもの、大切なものはないからです。東日本高速道路(ハイウェイ)が東北自動車道や常磐自動車道など高速道路をすべてストップさせ、緊急車両の搬入を優先させているのは、私を含め普段高速道路を使用する人々には非常に不便ではありますが、被災地の救援をするために立派な判断であると私は考えます。高速道路の使用に優先順位を決めることは、適切な判断だと考えます。

(5)高速道路のストップに限らず、被災地の支援のために災害の度合いが少ない地域の人々が耐え忍ばなければならないことがこれから数多く出てくると予想されます。十分な議論の末に出た結論に対しては多少不自由は生じても、また、負担は生じても、お互い様の精神で耐え忍ぶことが人間として大切なことと私は考えます。

Q：計画停電などがあると本当に困るのですが・・・。

A：(1)首都圏を含め関東地方に電力を供給している原子力発電所や火力発電所が東日本大震災で機能不全に陥り、そこからの電力供給が止まってしまった以上、今まで通りに電力の提供が受けられないことは事実として明確です。

(2)原子力発電のあるべき姿を含め 10 年後の電力供給のあるべき姿に向けて、国民的な議論は大いに、これから十分に時間をかけて行うべきと思います。

(3)ただ、目の前に迫った現実の解決すべき問題は、限られた電力資源をどう活用して日本国民の生存と生活を維持するか、産業への影響をできるだけ少なくできるかであります。

(4)電気が止まると非常に不自由をすることはよくわかります。私の住む栃木県足利市は本日 7 時過ぎから 10 時まで計画停電でした。私は本日 8:00 ~ 9:00 まではり治療を受けましたが、普段なら暖房の中で治療を受けられますが、本日は毛布などにくるんで頂き治療を受けました。はり治療後、CRT ラジオ栃木放送の両毛支店でこの「開倫塾の時間」を収録したのは、暗い録音室でした。その後、ガソリンスタンドに給油を受けたに行きましたが、停電が終わる午前 10

時までは一台も給油ができないため、私が 20l の給油をして頂けたのは 11 時過ぎでした。数時間という短い停電ではありますが、普段と異なる不自由を感じます。ただ、この不自由は耐え忍ばなければならないものだとは私は考えます。はり治療をして下さった先生は、電気が来ない中でも私の健康を気遣い懸命に治療して下さいました。CRT ラジオ栃木放送の支局長さんは、電力のない中でも録音できるよういつもとは違う録音機を準備して下さいました。停電の中、限られた分量しか提供できないガソリンスタンドの店員さんたちは、力を合わせて 1 人 20l までの給油をして下さいました。

(5) おそらく東京電力の方々も、限られた電力をどこにどのように提供すれば国民生活や産業に最も被害が少ないかを考え抜いて苦汁の決断の末、計画停電の作業をなさっておられるものと考えます。もっと言えば、東日本大震災で救援活動をなさっているの方々や原子力発電所で実際に修復作業を行っている方々は自らの生命の危険を度外視して、国民の生命・生存を守るためという崇高(すうこう)な考え、自らの使命を果たすという考えのもとに仕事をなさっておられると思います。

(6) 「使命」という漢字は、よく読めば「命を使う」という意味であることがわかります。被災地や原子力発電所で活動なさっておられる方々は、文字通り自らの「命を使う」という意味での「使命感」に基づいて尊い仕事をなさっておられるものと考えます。

(7) 確かに「計画停電」は普段の生活からみれば不自由なことが多くなることを意味し、私もそのことを体験したばかりです。しかし、被災者の方々や被災者の方々を自らの「命を使う」、「使命感」に基づいて救援して下さいしている方々のことを考えれば、静かに「耐え忍ぶ」「がまんする」ことも大切なのではないのでしょうか。

(8) 今こそ自分自身を律しながら行動する能力を我々一人一人は身につけたいと考えます。

2011 年 3 月 15 日 13:15 記